

令和5年1月期月次景況調査結果

この調査結果は、地区・業種を代表する県内組合の役職員の方から、毎月、業界の景気動向等に関する情報を収集・分析し、行政・関係機関に情報提供しています。

1月は、寒波による消費行動減少等の影響が一部に見られたが、ウイズコロナの進展により、コロナ前には戻らないまでも、総じて需要は回復傾向にある。

しかしながら、ほとんどの業種において、原材料費や電力料金等の高騰に価格転嫁が追いつかず収益の悪化が続いている、との報告が相次いでおり、景況DI値はほぼ横這いとなっている。

また、事業活動は回復傾向にあっても、製造業や運輸業等における人手不足は深刻化しており、さらに物価高に対応する賃上げが求められるなど雇用情勢は厳しく、先行きに対する不透明感が根強い。

山口県の主要指標 DI 値（令和5年1月末現在）









※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。


業界の景況	(< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、好転：7.5% 悪化：37.5% DI 値：▲30.0% ポイント
売上高	(< 増加 > - < 減少 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、増加：17.5% 減少：32.5% DI 値：▲15.0% ポイント
収益状況	(< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、好転：7.5% 悪化：37.5% DI 値：▲30.0% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（令和5年1月末現在）

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲30 以上	 ▲30 未満
--	--	---	---	---

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲37.5	▲50.0	▲100.0	▲50.0	▲50.0	0.0	0.0	▲34.4
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス業	建設業	運輸業	その他	全 非 製 造 業
▲40.0	▲62.5	▲20.0	▲9.1	▲27.3	0.0	▲100.0	▲27.1
							

全 体
▲30.0


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	寒波の影響で来店客が著しく減少し、休業を余儀なくされた組合員が多数である。顧客のために暖房もフル稼働せざるを得ず、支払いが不安であるという。燃料費については家庭だけでなく店舗や企業においても同様に負担感が増している。公共交通機関売店が求人募集をしたが、2週間問い合わせがない状況は過去になく、全体的に土日勤務の販売員が不足気味である。	パン・菓子製造業 山陽小野田市
	売上は10%程度増加したが、原材料や光熱費が高騰しており、収益は悪化している。雇用情勢は厳しい。	パン・菓子製造業 下関市
	磯物（特に海藻類）の減少により、小魚産卵場所の適地がなくなってきた。漁業者の高齢化が進み、廃業者が急増している。日本の海洋資源を大切にし、魅力を打ち出して、水産加工業を守っていきたい。	水産食料品製造業 長門市
	コロナ禍であっても年末は忙しかった企業が多かったが、年明けは落ち着いている模様である。入国制限が緩和され外国人技能実習生の入国が始まり生産量等の回復は見込めるが、原材料等の値上げが続いており、賃金の大幅な引き上げも検討される中、売上が上がっても利益が厳しい状況と思われる。	水産食料品製造業 下関市
	コロナを恐れ警戒することは大事だが、きちんと感染防止策をした上で、しっかり経済を回して行こうという傾向になってきた。脱コロナ、ウイズコロナ、停滞から活発化へ。まだまだ原材料費や電気代の値上げは続くが、思い切ってベースアップした金額が維持できるよう、さらなる努力をしていきたい。	食料品製造業
	コロナ感染症は続いているが、飲食店等もほぼ通常営業となり、売上げの減少は軽微なものとなった。米価については低迷しているのに原油価格の大幅な上昇とロシアのウクライナ侵攻による原料不足等による肥料・燃料など各種コストの大幅な増加により、製造原価が上昇し、事業活動がさらに苦しい状況となっている。各種の値上げが続いているが、取引先によっては、いまだに値下げを要求するところもあり、農業者には、原価割れの状況が続いている。ロシアがウクライナに侵攻し、11ヶ月が経過したが、全く終息する気配もなく、原油、天然ガス等の資源不足が懸念されている。また、ウクライナは世界有数の穀倉地帯でもあるので、食料不足に伴う穀物価格も上昇している。政府の、原油価格の上昇に伴う損失補填も限界にきているようだが、更なる対策費の上乗せと食料安全保障対策を早急に図るなどの措置が必要となってくる。北朝鮮、中国などの情勢を注視しながら、迅速に対応することが必要となる。電力不足が不安視されているが、電力の安定供給は、社会の安定に必要な不可欠であるので、安全性が確認された原子力発電を積極的に活用するなど、脱	精穀・製粉業

	炭素社会の実現にむけた努力を進めていってほしい。	
繊維工業	人材不足である。	外衣・シャツ製造業
木材・木製品	組合としての活動は皆無である。1月は全く何もない状況。岩国市から錦帯橋資料館のパブリックコメントが出されたので、いよいよ動き始めるのかもしれない。そうなれば、いつになるかわからないが組合から材料納入もあるかもしれない。	製材業・木製品製造業 岩国市
	当組合のコロナウイルスによる影響が出始めた時期は令和2年4月以降である。組合員の平均売上額は、コロナ前の令和2年1月に比べ20%の減少、コロナ禍の令和4年1月と比べ10%の減少だが、増加傾向の事業所と依然減少が続く事業所とが混在している。コロナ禍での感染等による社員の休業が増加し、業務が停滞する組合員がある。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	主材料である印刷用紙の15%~30%の値上がりで収益はかなりダウンしている。	印刷業 山口市
	新型コロナの分類変更の検討に入り、今春には2類から5類へ変更される見込みである。併せて屋内におけるマスク着用の解禁も叫ばれているが、今年は季節性インフルエンザの流行もあり、実現にはまだ時間がかかりそうである。国民生活においては、様々な要因による食料品や消費物品の物価上昇に歯止めがかからず、実質賃金は減少しているという状況に変わりはない。印刷業界も、原材料の上昇に伴う企業収益の悪化という状況は続いており、このような状況下での日銀の発表した金融緩和政策の転換や、政府の増税政策は再度景気を失速させる引き金になりかねないと危惧している。	印刷業 下関市
窯業・土石製品	原材料の値上げにより1月より販売価格の5%~20%の値上げを実施したが、まだまだ原材料（セメント、砕石）の値上げ傾向が続くようである。対前年比売上は増加しているが、販売量としては少ない。	コンクリート製品製造業 防府市
	6ヶ月前より継続している運賃、鋼材の値上げ価格は徐々に実績が上がり、令和5年1月設計値の改正で取扱製品の約半数の値上げを認めてもらえることができた。引き続き値上げの説明を継続して行うようにしている。令和5年4月頃にセメント値上げの打診が各メーカーから来ているが、タイムリーな値上げを切に願っている。公共工事発注量の大幅ダウンにより、今期の業績回復は、ほぼ不可能だと感じている。	コンクリート製品製造業 柳井市
	出荷量は、前月比102%、前年同月比94%。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。	生コンクリート製造業
	円安等の影響で仕入れ価格の変動が激しいため、見積りの有効期限を短くするか、若干高く見積もる必要がある。	石工品製造業

	<p>1月の売上高は、小売り・卸とも、やや減少。月後半の寒波の影響もあるとおもわれる。全国旅行支援が1/10から再開されたので、観光客の増加を期待している。当組合にとって国内最大級のイベントである「テーブルウェア・フェスティバル（1/27～2/5）では、令和2年（2020年）以来3年ぶりにフル開催（入場制限なし、東京ドーム内）されたが、来場者はコロナ前と比較し2/3の約19万人で、客層は比較的若い方の来場が目立ち、外国人の来場は少なかったような印象である。当組合から4事業所が参加。売上は、コロナ前と比べ、来場者の減少もあって若干の減少となった。</p>	陶磁器・同関連 製品製造業
一般機器	<p>年末からの閑散期が続いているが、対前年同月比では不変の状況で予測通りである。その中で変化があることは、どんどん人手不足が深刻になってきていることである。来年度の繁忙期をどうやって乗り越えていくか、これから不安である。</p>	一般機械器具製造業 下松市
	<p>共同配管による酸素の供給で今年度3回目の値上げがある予定。値上げ幅は今後の交渉になるが、前年度より約26%の値上げとなる見込みである。</p>	一般機械器具製造業 周南市
	<p>原材料、資材、購入部品の高騰は製品価格にすべてを転嫁できず、製品価格は採算ギリギリに達していると感じる。また、購入品の入手難は変わらず納期が長期化している。その他製品は原材料費の値上げは受け入れてもらっている。引き合いは非常に強いが、働き方改革で製造時間にも限度があり、人手不足も解消せず、納期が遅れている。元請会社が吸収合併されたので、今後色々と制約が出てくると思われるが、かなり厳しい状況の上、方向性もはっきりしてない。物価高騰に対して受注は好転には至っておらず、元請け側との価格対応に苦慮している。原材料、電気料金等を吸収しきれないでいるので、更なる値上げに転嫁できるかが課題となる。</p>	一般機械器具製造業 防府市
	<p>中国のゼロコロナ政策廃止の影響もあり、世界的にコロナと経済との共存が進展することにより業況は回復基調にある。また、円安については若干落ち着きを見せているが、ロシアのウクライナ侵攻に伴う資源高・資源不足と関連して、電気・ガス料金にとどまらず、物価アップへの影響が大きい。さらに生活の安定のために賃金アップも想定され、下請け中心の中小企業にとっては大きな経営負担となってきている。今後、早急に元受企業の発注単価の改善が必要となる。外国人材確保の面では、日本の低賃金、急激な円安の影響は大きく、欧米、カナダ、台湾、韓国との人材確保競争は厳しいものがあり日本は脱落気味である。国内での競合も激しく、都会の高賃金に対抗できず募集しても人が集まりにくい状況が続いている。</p>	一般機械器具製造業 宇部市
	<p>光熱費等の高騰により、コロナ禍前の収益までは回復せず鈍い動きが続いている。</p>	

輸送機器	鉄道車両関係は順調に推移している。今後2年間は同程度での推移と思われるが、令和7年(2025年)以降の見通しは不明。半導体製造装置の部品製造業において、やや陰りが見え始めている。製造部位によれば6割に減少しているものもあり、今後の受注動向を注視したい。従業員確保及び技能継承には苦勞している。	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	電気代の高騰で2月から保管料金を値上げすることとした。海苔の不作で価格が高騰しているため組合員の購入数が減少しており、それに伴い保存倉庫への入庫が大幅に減少し、倉庫の売上は前年及びコロナ前より減少している。	乾物卸売業
	物価高騰の影響を少なからず受けているようである。	各種商品卸売業 防府市
	コロナ禍の行動制限が緩和され、商品の売上が増加している。	各種商品卸売業 山口市
小売業	組合員の売上は前年と同じ程度の模様である。ウイズコロナやインバウンドの恩恵を受ける店もあるかと思っただが、思いの外売上は上がっていない模様。全国では小売業の売上が19年比28.9%減と、コロナ前の7割まで戻ってきているとのことであるが、この3年間で売上及び利益減の影響で支店を閉め、売上を一本化する店等が増えてきたようである。そろそろ春の新色等が発売になるので、どれだけ予約を取る活動をしているかが売上げのカギとなると思われる。	化粧品小売業
	1月は天候が悪く売上が良くなかった。但し凍結で給湯機等故障の修理対応は多かった。売上は前年比90%位である。	機械器具小売業
	令和5年1月は寒波襲来による休館で前年に対して1営業日減少。売上状況は、コロナ禍の令和4年1月と比べ約14%増加。来館者数も約9%増加し、コロナ禍ではあるが、旅行支援やプレミアム付き商品券等の事業が消費喚起を促し人出の回復が見られた。電気料金については、令和4年9月以降、毎月前年比約60%増額が続き収益に影響している。	各種商品小売業 萩市
	1月の供給高は前年比102.3%、来店者数は94.1%、来店者が減少している。商品価格が値上がりし、供給は伸びているが、人件費や光熱費などの経費も上がっている。鶏インフルエンザの影響で卵の入荷が不安定になっており、販売の制限を設けた。	各種商品小売業 下関市
商店街	新型コロナの5類相当への引き下げアナウンスがあり、商店・飲食店等の間では明るい兆しが見えるも、医療福祉関係や一部の業界の間では更に警戒心が高まり、意識格差は大きくなっている。マスクやアクリル板が無くなれば、慣れるのも時間がかからないと思われ、それに伴い、消費行動が喚起されるよう、販売促進活動を行っていきたい。	岩国市
	諸物価の値上がりで消費が鈍いように思われる。寒さで人通りも少なく、コロナが落ち着きを見せたとはいえ、不安な状況が続いている。	宇部市

	<p>12月、1月は商店街発行商品券のお陰で来街者もあり、商店からも温かい言葉を貰えた。ただ、業種によっては、売上にあまり貢献しない店舗（衣料関係）や、プラスの店舗（食品関係）などに分かれている模様。呉服店は「振袖に期待をしていたが思うように売上がなかった。」と嘆いておられた。</p>	萩市
	<p>寒波の影響で来街者数が激減している。下関市のひなまつりイベントが商店街でも開催されるので、もう少し暖かくなったら、多くの方に見に来ていただきたい。</p>	下関市
サービス業	<p>ウイズコロナで美容室での感染対策も徹底しており、コロナ罹患数が増えても昨年並みの水準である。</p>	美容業
	<p>コロナ禍や物価高騰などで節約傾向にあるため厳しい状況にある。</p>	理容業
	<p>国に納める自動車関連手続きの手数料や自動車重量税が、1月からクレジットによる納付が可能となった。一見、便利になったように思えるが、特に重量税に関してはクレジット決済手数料が1万円で83円がかかることから負担が増えることになり、整備事業者にとっては国の愚策にしか見えない。ユーザーや整備事業者の立場に立った制度にしないと、キャッシュレス化は名ばかりのものになってしまう。</p>	自動車整備業
	<p>会費の値上げで売上高は少し上がったが、電力の値上率が異常で会費の値上げをしても追いつかない。</p>	スポーツ・健康教授業
	<p>1月の状況はコロナ前と比べると良くないが、コロナ禍の1~2年前と比べると、活気が出てきたようである。</p>	飲食業
	<p>売上、宿泊人員とも県民割等の施策により前年同月比は大幅増となったが、コロナ前2019年の売上同月比で90.8%、宿泊人員は110.0%と宿泊者数は2桁の伸びとなった。全国割の継続、サイコロきっぷ等の施策が一因。売上については新年会の開催控え、飲食を伴わない会議開催などの影響を受けたためと考えられる。</p>	旅館業 山口市
	<p>旅行等の条件緩和は実施されたが、売上は大きく伸びなかった。売上高は前年比8%減少。管理費では原油高、光熱費の高騰等により営業経費が増加し、経営に大きく影響している。一部の入浴施設では経費削減のため、週休3日を継続しており売上高が伸びない状況である。</p>	旅館業 長門市
	<p>1月から全国旅行支援の内容が変わったことにより、ファミリー・シニア層が減少している。</p>	旅館業下関市
建設業	<p>中電への工事申請107件(当支部91件)、前年同月106件(同96件)。太陽光発電への申請17件(前年10件)、オール電化申請70件(前年22件)。LED街路灯への切り替え・新設申請12件(前年7件)であった。</p>	電気工事業

	左官工事従事者数が 32 年前は約 20 万人、2 年前は約 6 万人と、大きく減少している。建材価格が 10%～30%程度上昇しており、それに応じて見積単価を若干上げている。この 1～2 年間、工事量が 20%～30%減少し、決算の悪化している事業所が多い。	左官工事業
	令和 4 年度官公需の入札は終了しており 1 月の入札は無かった。年度初めに受注した仕事をしているが、民間工事もなく、全般的に仕事量は少ない。1 月下旬、10 年に 1 度の寒波ということで災害協定もあり対応したが、テレビ等で水道管破裂の防ぎ方等をアナウンスされたので、2 年前に 1600 件の水道局への修繕等問い合わせが、今回は 300 件程度であった模様である。	管工事業
	増税による防衛費の大幅な増額が伝えられ、更に、異次元の少子化対策と言う財源の確保を曖昧とした政策提案がなされた。一方、消費者物価が数十年ぶりの上昇率を示している。柳井地区の公共事業の発注が、件数金額ともに、例年ベースの 3 割近く低い。11～12 月の発注が少なく、年度内の合計は、過年度をかなり下回ると予想される。公共土木以外では、民間の集合住宅を含む住宅建設は昨年末から増加しているように観察される。	一般土木工事業 柳井市
	1 月の受注高は、対前年同月比 74.0%。今年度の累計では、対前年比 79.5%。	一般土木工事業 萩市
	燃料費、生コンクリート、アスファルト、鋼材、木材等の建設資材単価が高騰しており、収益への影響が心配される。第 3 四半期が終わったが、長門地区の公共工事発注高が例年に比べ減少しており、その中でも舗装工事が著しく減少している。第 4 四半期の補正予算に期待している。	一般土木工事業 長門市
	各社、自社工事や同業他社の手伝いで工場稼働率を確保している。図面承諾の遅れで残業が増え、塗料、酸素、アセチレン、CO2 等の消耗品の値上げが続いており、コスト面であまり良い状況ではない。県内の見積物件が少なく、中・小規模物件が非常に少ないと感じている。	鉄骨・鉄筋工事業
運輸業	輸送関係は 1/10 頃より輸送量が僅かながら上向き傾向で、久しぶりに車両不足の状況も見られた。降雪の影響で出荷の動きが鈍くなったものの予定通りの運行ができ、前年同月比 1 割強の増加。相変わらずのドライバー不足、高齢化が中小運送業者にとって最大の悩みである。燃料関係は前月と変わらず。少額でも値下がり希望との声も多く聞かれる。	一般貨物自動車運送業 下松市
	自動車関連の組合輸送取扱高は若干のプラスとなった。しかしながら、依然として半導体他の部品調達難が続いており、コロナ前の水準には遠く及ばない状況である。	一般貨物自動車運送業 防府市
	依然として物価の高騰が収益に与える影響が大きい。輸送に関して荷動きはあるが、例年ほどではない。倉庫保管案件は増えている模様。人員も少しずつではあるが増えている。特に倉庫管理に関する人員が不足しているので、継続的に求人を続けていく。	一般貨物自動車運送業 宇部市

	<p>タクシーチケットの取扱い金額（税込み）は、前年比+7.9%（令和4年12月1日～令和5年1月20日分）だった。12月1日～31日分は▲0.5%、1月1日～20日分は+36.2%。前々年度比では、それぞれ+62.4%、+41.3%、+46.8%になった。前年1月～2月はコロナの影響で大幅減少しており、ウイズコロナでやや回復していると思われる。12月分は前年並みであり、コロナ禍以前までには、まだまだ回復していない。当組合の取扱いタクシー事業者は、周南市、光市、下松市、防府市の地域。12月分については、周南▲4.7%、下松▲12.3%、光+6.2%、防府市地区が▲3.8%で、組合員の全域では▲1.8%、地区外（員外）+9.4%、合計▲0.5%（▲94千円）だった。主要燃料であるLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動する。CPが下がり（前月630\$/トンが今月627.5\$/トン）、フレート（輸送）コストも下がり（前月12,900円/トンが今月12,100円/トン）。為替も円安（前月143.48円/\$が136.22円/\$）となり、燃料単価は前月より▲3.3%下がった。前年1月比は+2.3%。タクシー乗務員は労働条件が厳しい（賃金が少ない）事もあって慢性的に不足しており、高齢乗務員の退職後、その補充ができない状況。ウイズコロナで行動制限が緩和され需要が回復傾向にあるが、まだコロナ前（令和元年度以前）の需要の▲38%付近であり、諸物価、経費が増加する中、たいへん厳しい経営状況の様相。運賃改定の動きがあるが、山口県内の認可はもう少し遅れそうである。</p>	一般乗用旅客 自動車運送業
	1月も対前年比、取扱高若干の減少である。	港湾運送業
その他	現状、変化はみられない。技能実習実施施設も動きがとれず、進捗もない状況。また、年末年始をはさんで新型コロナウイルス感染者も増加しており、各施設においても面会や入館ができない状態である。	介護事業